# こんなところに仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

## 棄老説話

古くから老人を捨てるという説話は世界中にありました。日本には、おおきく二つのタイプがあります。一つには、難題解決型です。これは『雑宝蔵経』に説かれます。昔々ある国で老人を山に捨てなければならないという法律があり、息子が親を山に捨てようとしたが思いとどまり、家に隠します。その後、隣国から難題に答えられなければ、国を攻めると王様は脅されます。この難題を解決したのが、捨てられようとした老人から知恵を授かった息子でした。その後、この国では老人を大切にした、という話です。

もう一つのパターンは、山に捨てられようとした老人が枝を所々で折っています。息子が理由を問うと「お前が帰りに迷う事がないように」と、この期に及んでもわが子を心配するのかと、引き返すという話です。　他にも、二つを合わせた型や、孫を連れて行き、「私も父を捨てるから」と言われる型もあります。

世界中に伝わっている話という事は、共通の課題である証拠です。現代人はどの型にあてはまるのでしょうか。

「あきらめる」大丈夫　前に進んでいます。

高倉瓜

## 疑惑

最近では、疑わないと詐欺に引っ掛かります。電話、メール、玄関先でのあらゆるところに詐欺があふれています。疑う心に我々は慣れています。

よく、信じればすくわれるという言葉があります。では、信じられなければかすくわれないのでしょうか。浄土真宗にとって「疑惑」は重要な言葉です。

真宗では私が信じる信じないという私を主語にはしません。阿弥陀仏を主語にします。阿弥陀仏がかならずあなたをすくうと誓われて仏に成られた。迷うことも疑うこともご存じでお慈悲を届けておられます。私が信じる信じないの以前に、弥陀仏が私を願っておられることを聞くのです。

親鸞聖人は疑惑の和讃を二十三首記され、疑うことの罪を記されます。ところが、その最後の和讃には

仏智うたがふつみふかし　この心をおもいしるならば
くゆるこころをむねとして　仏智の不思議をたのむべし

疑いをなくすなくさないではなく、悔いるこころを旨として、阿弥陀仏を拠り所といたしましょう、と閉じておられます。信じればすくわれる疑わなければすくわれるという次元ではなく、もうすでにすくいの真っただ中であったと聞かせていただくのです。

仏 ↑ ↓ 私